

令和2年度第1回大口町子ども・子育て会議

日時：令和2年11月20日金曜日 13時30分～
15時30分

場所：大口町健康文化センター1階多目的室

事務局（課長）：

[あいさつ・資料確認]

[欠席委員報告] 水谷委員（主任児童委員代表）、額瀨委員（子育て支援団体代表）、
社本委員（生涯教育部長兼学校教育課長）

次第1 健康福祉部長あいさつ

掛布健康福祉部長：[あいさつ]

次第2：大口町子ども・子育て会議設置条例の概要

事務局（課長）：[資料 大口町子ども・子育て会議設置条例 説明]

次第3 正副会長の選出

委員互選により選出

- ・会長：多川委員
- ・副会長：岩根委員

多川会長：[あいさつ]

次第4 協議事項

(1) 大口町子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援行動計画について

事務局：[資料1 説明]

会長：この件について、ご意見、ご質問はあるか。

副会長：西保育園の増設によって待機児童が解消されたとのことだが、昨年度の会議の中で質の担保がどのようにされていくのか、よいサービスをどれだけ提供できるかということが問題となっていたと思うが、どのような保育がなされているのか教えてほしい。

事務局：保育園の状況について、今年4月から西保育園の保育室を増築し、多くのお子さんが入所できるようになった。保育環境を整えるという面では、大学から講師を招いて保育士も勉強をしている。また、保育環境だけでなく、子どもたちが社会性等を学んでいく育ちのために大切なあそび、学びといった保育の展開も日々勉強しているところである。大変多くのお子さんが入所しているため、いろいろな場面で待っている時間が多くなることが想像される。ひとりひとりの待ち時間を少なくする、待ち時間をずらすなど切れ目のない保育展開ができるよう、子どもたちと関わりながら様々な勉強・工夫を行い、質の高い保育ができるよう過ごしている。

藤田委員：大口町子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援行動計画（概要版）の戦略プロジェクト2の図において、児童センターの位置づけについて大口町地域包括支

援センター間等、どこにも矢印がないがどうということか。

事務局：誤りでした。

岡田（佳）委員：ぱんだ教室というものを初めて知ったが、広報紙にのっているのか。

事務局：ぱんだ教室とは、障害を持っているお子さんや子育ての中でお母さん方が子育てしづらいお子さんが親子で通う母子通園施設である。親子でぱんだ教室に通ってもらうことによって、母親が子どもへの関わり方を学んだり、子どもは少人数ではあるが集団の中で家庭ではない社会性を学んだりすることで、大きな集団に入る前のステップとして遊びを通じて療育を学ぶところである。ぱんだ教室をどのように伝えているのかについては、検診等で母親から発達が気になる等保健師に相談があった場合に、状況をみながら紹介している。

会長：この件については、了承したということによろしいか。

[承認]

(2) 子育て世代包括支援センターについて

事務局：[資料2 説明]

保健センター部分の説明は松井委員よりお願いしたい。

松井委員：[資料2 保健センターについて説明]

会長：この件について、ご意見、ご質問はあるか。

副会長：継ぎ目のない支援というものが計画を策定する際にも肝であり、大口町の強みであると思う。その基礎として子育て世代包括支援センターの役割は大きなものがあり、楽しみにしている。資料2にある「おたんじょうおめでとうコール」は、右も左もわからないお母さんにとって救いの声に聞こえるのではないかと思う。誕生会の事前の連絡はあるのか。

事務局：4か月児検診の際に、児童センターの職員が子育て支援についてのパンフレットを保健センターを通じて配布・説明してきたが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、パンフレットを新しくして配布し、その中に1歳・2歳・3歳になったら児童センターで誕生日会をするのでお越しくささいと記載している。また、子育て支援センターのコンシェルジュによる声かけもしている。

副会長：子育てに関わる施設が手を取り合っていることがわかり嬉しく思う。

岡田（佳）委員：一時預かり事業について、いっぱい預けることができなかつたり、利用料が高くして利用しにくいように思う。

事務局：一時預かりの利用する方が多いことは聞いており、そのニーズに応えるため、大口中保育園の方で配慮いただいて今年度から受け入れ人数を増やしたが、新型コロナウイルスの状況で利用は少ない。様々なご意見を伺いながら、改善できるところは改善に努めていきたい。

成田委員：広報紙だと様々な情報が多すぎるため、子育てだけのページを開設してわかりやすくなると必要な情報を逃すことがなくなり、「フレッシュママの会」等の参加も増

えるのでは。

事務局：皆さんに情報を伝えたいという思いが強くてたくさん載せてしまうように思われるが、子育て情報については、例えば健康生きがい課・保健センターと共同で同じページに乗せたり、子育て支援センターに来たら情報が一括でわかるようなものを掲示するなどしていきたいと考えている。広報紙については、忌憚ないご意見をいただきたい。

藤田委員：直接の窓口としては民生委員となる気がするが、高齢化社会で高齢者が増えると見守りなど民生委員の負担が大きくなるのではないかと思う。民生委員の数を見直されたとあまり聞かないが、人材確保等将来的な展望はあるか。

事務局：例えば、高齢者の方も保育園に来て知識等をいただいたり、各保育園で農園を持っているのでお手伝いいただいたり、高齢者の方も子育てに参加し協力してもらえればと思う。民生委員については、定員31名いるが、民生委員の選出も難しくなっているのが現状である。形骸的に行っているものは廃止するなど職務の見直しをしながら、高齢者の皆さんにも協力してもらえると大変ありがたい。

会 長：この件については、了承したということによろしいか。

[承認]

(3) コロナ禍での保育園及び放課後児童クラブの対応について

事務局：[資料3 説明]

会 長：この件について、ご意見、ご質問はあるか。

岡田（佳）委員：小学校の保護者から聞いたが、保育園は分散型の運動会を行った一方、小学校の運動会は保護者が参加できず残念だった。屋外になるので、来年は保護者も見させてもらえるよう考えてもらえればと思う。

小竹委員：運動会について、考えに考え、友達や他学年を応援し、自分が頑張り、楽しもうという子ども中心の形をとった。保護者の皆さんには大変申し訳なく思う。どこかで機会を作りたいとは思っているが、なかなか難しい。

岡田（佳）委員：いろいろ考えた上での運動会だと分かった。

会 長：幼稚園と小中学校の様子はどうですか。

大塚委員：大口町の子は大口で育てるというひとつの大きなスローガンがあり、私立幼稚園も関わりのあるところは会議に参加するという姿勢は素晴らしいと思う。新型コロナウイルス対策については、緊急事態宣言の間は自粛登園という形とし、6月からは通常保育となったが、3密を避けることを常に考え、門での検温や消毒を実施し、マスクの常時着用、飛沫感染防止の仕切り、換気等を行っている。また、行事は、屋外の園庭で実施や時間をずらす等して行った。行事がなかなかできないとの話があったが、運動会や発表会に向けて子どもたちが一生懸命やったことが大切であって、親が喜ぶような運動会等を行う必要はないが、幼稚園においては、子どもたちは親に頑張った姿を見てもらうことを糧にしているため、その機会を潰してはいけないということから、行事はできるだけ見てもらえるよう工夫している。

小竹委員：小学校も同様に消毒、手洗い、マスクの着用、換気、検温等心がけている。保護者の方も大変協力的で、不安な場合は相談を受ける等連携しながら進めていくしかない。マスクをしていると表情が見えず、ニュースで何かしら心理的影響があるといわれ始めている。あいさつのコミュニケーションを大事にしようとしている。

大塚委員：コロナ禍以前は、子どもたちがコミュニケーションをとれるような形態のグループ活動が教育の大きな柱だったが、コロナ禍においてそれができなくなっている。コミュニケーションがとれない子どもが増えることを心配に思う。この状況が続くのであれば、そこをどうカバーし、コミュニケーション能力、かかわり方を教えていくかが大切で、難しい課題だと思う。

小竹委員：自分の考えを持ち、人の考えを聞く意見交換が主流だったものが、迷いながら試行錯誤して授業を行っている。

次第5 その他

事務局・委員から特になし